

真声会 会報

第 46 号

2008年 6 月20日
発行

発行所
京都市立芸術大学音楽学部同窓会
真 声 会

〒610-1197 京都市西京区大枝沓掛町13番地の6
京都市立芸術大学音楽学部内
TEL (075) 334-2222

ホームページ開設しました！

京都市立芸術大学音楽学部同窓会真声会のホームページが出来ました。
http://w3.kcua.ac.jp/~shinsei/

京都市立芸術大学のホームページにリンクされています。
http://www.kcua.ac.jp/

後援演奏会の情報も会報よりいちちはやく紹介します。
会員の皆様のよき親睦の場となるよう
今後もさらなる内容の充実をはかってまいります。
どうぞよろしくお見守りください。

今春の卒業式・入学式

卒業式に出席して
副会長 大谷 正和（32期 ピアノ）

前日夜半に降り続いた雨もすっかり上がり、清しい快晴となった3月24日、平成19年度京都芸大の卒業式に、真声会を代表し、副会長の佐々木研さんと共に出席して参りました。

今年度の卒業生は学部卒業生61名、大学院修士課程修了生19名、同博士課程修了生1名の計81名で、真声会としては53期生を迎えたことになります。どの顔も卒業の喜びに溢れ、これからの行く手に期待で一杯の明るい表情がとても印象的でした。式では華やかな袴やスーツ姿に混じって、マーメイドや月光仮面などの仮装をした美術学部生、また我が音楽学部もパンダの被りものやカンガルーの着包みで卒業証書を受け取る学生もいて、会場の忍び笑いを誘っていました。

潮江宏三学長からは、『自己に正直たれ、そして自己を鍛えよ』という、自分の内実からくる声に耳を傾ける構えを常に持つこと、また『生きるに巧妙たれ』と、時代を生き社会と関わりつつ、表現に価する自己の場を確保しなければならない、という前途洋々の若者たちに向けた温かい激励の言葉がありました。そして最後に『閉塞状況に新しい風を起こして、この稀有の大学の輝かしい伝統を受け継ぎ、発展させることになることを期待している』と結ばれました。この“稀有”という言葉こそ、京都芸大を象徴する至言であり、新卒業生にはこの伝統を引き継いで、広く社会で活躍して欲しいと願いながら大学を後にしました。

入学式に列席して
副会長 佐々木 研（10期 打楽器）

去る4月10日、平成20年度の入学式が挙行され、真声会からの来賓として列席いたしました。私は3月の卒業式にも列席しましたが、あの時の「楽しく和やかに」といった雰囲気はまったくなく、さすがに緊張感があり、落ち着いた式典でした。

潮江宏三学長の式辞は入学生たちにとって、身の引き締まる思いがしたことでしょう。また、忙しい中を駆けつけてくださった門川大作市長の祝辞は「この文化都市京都で、皆さんの芸術的な力を大いに磨き、育ててほしい」

と、温かく力強い励ましの言葉でした。

さて、今年度の新入生は音楽学部63名、大学院音楽研究科修士課程24名、博士課程4名でした。音楽を生涯の仕事として身を立てていくには、大きな困難が待ち受けていることと思います。この大学での時間を基礎的な力を蓄える期間と捉え、地道に努力されることを期待して、入学のお祝いとさせていただきます。

卒業生としての想い
第53期卒業生 嘉勢 太務（作曲）

春日の候、大変僣越ながら第53期卒業生を代表致しまして、謹んで筆を執らせて頂きたく存じます。

思い返せば今から四年前の春、満開の桜とともに先生方や先輩方に歓迎して頂きつつ、私達は希望を胸に入学致しました。今でもその時のことを鮮明に記憶致しております。

四年の月日が経過した今、自明のことですが、私ができることができたものの殆どが、形のないものであることを改めて痛感致します。

例えば、私は作曲専攻に在籍する学生として、幸運にも演奏を専攻とする多くの方の力を借りることができ、また、作編曲者として友人と戯れることができました。勿論、それは何事にも代え難い悦びであります。しかし、そのような類のことだけではありません。私事で大変恐縮ですが、病気を患った折、友人達の感謝すべき温かさに触れることができたが、それは、共通項である音楽を超えていながらも音楽という共通項によって感じられるとも言えるべきものであり、その時のことを思い出すと今でも胸が熱くなります。上記のような形のないもののことを財産と言うのだと改めて教えられる思いが致します。

ところで、私達の世代は、現代社会の問題の象徴であるかのように報じられることも多く、また、私達がこれから生きてゆく時代は環境問題など世界規模の課題が散漫しており、その前途は決してたやすいものではないように思われます。だからこそ、京都市立芸術大学で過ごした四年間という時間から学んだことを活かしつつ、今この時代に生きる意味を常に自らに問うてゆきたいと思います。

4年で100人《会員だより》

山下 喜美（2期 ヴァイオリン）

当時、鞍馬口で短期大学として発足したが、誇り高い思いで勉強に励んだ。聞こえてくるピアノの音に、授業をしばし中断する数学の先生も居られたが、何もかも珍しく楽しかった。オケは堀川高校と合同で。

卒業後、発足時の京饗に入団し、同じ鞍馬口に通った。ヴァイオリンはここでしぼられ、勉強もいっぱいした。そして2006年。

50周年記念コンサート出演できて、感動であった。

子育て期は子供と一緒にピアノを数年学んだ。子育て終了時は暇なので、好きな声楽を10年学んだ。クラシックだけではなく先生との出会いがあり、支えのある声、表現力などを学び、楽しかった。

外国人歌手による公開レッスンも見聞きし、その確認もでき、音楽を遊び心

というか、広い視点で観ることができるかなと思う。

専門のヴァイオリンも続けていると、深く分かったり、新しい発見もあり驚く。『卒業は出発点だ』と今思える。で、私は今も音大生活。頼まれればヴァイオリンを弾きに。隣組の歌の指導も22年目に入り、その度にピアノ伴奏もしている。片隅ながら、本物に迫ることは本当に楽しい。

＜雑感＞ 感動の一瞬は心を浄化する
島津 與外次（5期 声楽）

今から数年前のリタイアまでの約40年間を、音楽教育一筋に携わって参りました。この間、公・私立高校、短大、大学等で教鞭を執って参りましたが、

実は、正確にはリタイア後も少しの間ではありましたが、幼稚園の園長としての貴重な体験をさせて頂きました。今日は、その園長当時の立場上から関心を持つようになって、今だに気掛かりになっている事について、皆様と一緒に考えてみたいと思います。

さて、音楽による教育が心情に大きな役割を担っているということについては、古代より洋の東西を問わず言われてきておりますが、音楽と人間の精神・人間形成との関係について述べられた思想は決して新しいものではありません。古代中国での礼楽思想では、「音楽を全ての人が身につける教養」として扱っていましたが、古代ギリシャに於いても音楽は「人間が修得しなければならぬ大切な学問」の一つとして考えておりました。

古代ギリシャの哲人アリストテレスは「音楽教育を人格の陶冶の具」として考えていましたし、同じくギリシャの哲人プラトンも彼の書物『国家』の中で、「身体の為の教育は体育であり、魂の為の教育は音楽である」と説いております。

これが、あの有名なプラトンのエトス論なのですが、これに依れば、元来、音楽が持っているハルモニア（旋律）のエトス（性格）は人間形成の上に於いて大いに関わっているものであり、即ち、音楽の持っているハルモニアのエトスが人間の品性を陶冶したり、あるいは頹廃を招いたりして、人間の精神に作用しているのではないかと、説いています。

ところで、最近の小・中学校の音楽の授業や教科書の内容のていたらくは、嘆かわしいの一言で、時代の流れと言ってしまうかもしれませんが、その内容が今日の子供達の感覚にさせているものの、合わせ過ぎではないかと言わざるを得ません。単に有名なアニメの主題歌だから、CDが爆発的に売れた流行歌だから、と言った理由だけで簡単に教科書に載せてしまう風潮があまりにも強くないでしょうか。ここに大きな問題があるようにも思えますが。

とにかく、最近の音楽の教科書は利根的、分裂的に思えてなりません。学校教育の中で音楽を情操教育面から考えるならば、プラトンも言うように、本来、音楽が持っているハルモニアのエトスが人間の品性を陶冶してくれると言う作用をもっと真面目に考えるべきではないでしょうか。特に、音楽による感動の一瞬は、私たちの心を浄化し、心の底より感動と喜びを与えてくれます。

人間を作ると言うことは、家庭教育、社会教育、そして学校教育によって作られるものですが、今こそ、戦後から今日までの教育が正しかったのか、正しくなかったのかを真剣に考えて、戦後61年間の知識詰め込み主義の教育から、心の教育に変換すべき時期に来ているのではないかと思えてならない今日この頃です。 合掌

（日伊音楽協会正会員、日本イタリア協会声楽コンクール審査員）

「オペラに魅せられて」

小林 正夫（22期 声楽）

私事、2年半前、思ってもみなかった病の手術による反廻神経切断により、まさか声楽家の自分が声を失うことになるとは夢にも思いませんでした。今、歌を愛する方々や家族に支えられて、音楽できる喜びを日々感謝しています。さて、我が期の声楽専修は、京芸の歴史に残る男声8名、女声7名の稀に見るバランスのとれた？学年でした。一回生の夏には先輩方が手弁当で立ち上げられた京都オペラグループの初公演のメノッティ作品で、個性派揃いの一回生男性陣が合唱の初舞台。続いて、その芽は学園祭において火が灯り、2・3回生の時は合奏団イ・モジチと後輩の声楽仲間の協力を得て、名作曲家のメロディーを拝借作詞した盗作オペラ「苦悩のファウスト」（グノーを振ったりしている）上演し喝采を浴び、再演を重ねました。4回生ではブッチーニの歌劇「ジャンニ・スキッキ」を公演。蔵田先生指揮の下、12月に寒一い講堂でストーヴをたいて、2回公演。他の音楽大学からもオーディエンスが沢山詰めかけてくれました。寒風吹きすさぶ武徳殿前でベンキを塗り、徹夜続きでベニヤ板50枚で作ったフィレンツェの屋敷の組み上げが完成したのは公演日の夜半でした。大道具づくりに励んだことはよい思い出です。何よりオペラを作る原点を知りました。その「ジャンニ・スキッキ」のリヌッチョ役を数年後に小生の所属する関西二期会本公演にて幸運にも演じさせてもらい、以後、愛してやまないブッチーニ作品「ラ・ボエーム」や、佐渡氏指揮の「蝶々夫人」等に出演の機会を得て今に繋がっています。1995年、蔵田師匠とともに「メリー・ウィドウ」のダニロをダブルキャストで演じられたことは私の何よりの宝です。

京芸時代にオペラ舞台の魅力に引き込まれて30年余。現在も先輩歌手の皆様と、そしてより若い歌手たちとともに、日本に誇れる新たなステージを夢に描いて活動しています。

（関西二期会常任理事、同オペラ研修所所長）

「次のステップへ」

大畑 博貴（29期 ピアノ）

私は岡崎から沓掛へ移転した昭和55年の、ちょうど最初の入学生でした。入試は岡崎で受けましたが、授業が始まる前の単位登録などは新校舎の沓掛で行われました。しかし沓掛という地名すら初めて聞く場所。地図を片手に桂駅から恐る恐るバスに乗ったものの、当時はまだ芸大前のバス停もなく、国道沓掛口で下車し、うっそうと茂る竹林を見上げながら「こんな所に大学があるんだろか…?」。本当に不安だったことを今でも覚えています。

その大学を卒業して25年。必死だった20歳台、猪突猛進だった30歳台、細々ながらも続けてきた演奏活動は、デスクワークの急増と反比例して、今では青息吐息状態の40歳台。

しかし、一つ一つの演奏に新しいプログラムを織り込んで、自分自身の可能性を広げていく楽しみを見つけたようにも感じています。

目前に近づいた50歳台には、これまでとは違うピアノの楽しみ方ができるのではないかと、今からワクワクしていますが、もう少し身体を鍛えておかないと…と、毎日誓いを立てるものの、また明日から…。

Wii Fitを買うべきかどうか、迷っています。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

宅間 斉（31期 打楽器）

私は、現在、京都市交響楽団の打楽器奏者です。最近、変化を求めて打楽器アンサンブルを中心とした室内楽コンサートを家内（加藤ユミコ）の企画で自主公演しました。数回のリハーサルで難曲をこなす、というのではなく、今回は十分時間を掛け、妥協せずに納得のいく所までやりぬくという方を選びました。メンバー間で音楽面、技術面での厳しいやり取りもありました。アンサンブルは演奏家同士の信頼関係が基本にあることを改めて感じる良い機会になりました。

京都市立音楽高校で打楽器を教えています。生徒の殆どが音大受験生です。大変骨の折れる仕事ですが、力強く受験の試練を乗り越える生徒達から毎回大きなエネルギーを受け取ることができます。

この間、ジュニアオーケストラの打楽器パートのオーディションの際に、ある中学校のプラスバンド部の男子生徒が受験に来ていました。私の打楽器との出会いも彼と同じだったのだな、と30年前のことも懐かしく思い出しました。当時の吹奏楽部の顧問の先生が、打楽器科を専攻されていた事が、私にとって大変幸運だったと思います。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

松園 洋二（38期 作曲）

真声会会員の皆様、初夏の候ますますご健勝のほどお喜び申し上げます。突然の原稿依頼で何を書いていいやらとまどっておりますが、卒業から現在までを振り返ってみることと致します。

平成9年に本学大学院を卒業した後、一年半ほど京都コンピュータ学院で作曲法の非常勤講師を勤めて参りましたが、藤井園子先生（第8期作曲）の御紹介により京都フィルハーモニー室内合奏団（以下京フィル）の小学校公演用音楽物語「三年峠」を作曲させて頂くこととなり、その縁で平成10年の冬からピアニストとして入団しました。そこではピアノ以外にも作曲や編曲を担当し、多くの作品を初演していただきました。そんな生活が続いた頃、当時の声楽科教授の常森寿子先生から本学の非常勤講師（大学院のオペラ演習の伴奏）のお話があり、学生時代から伴奏好きの私は喜んで引き受け、平成15年から現在まで勤めております。さらに平成18年からは指揮科の伴奏もさせて頂くこととなりました。しかし京フィルとしての演奏活動と非常勤講師との両立はかなわず、遺憾ながら平成19年の三月をもって京フィルを退団することとなりました。そんな時でした、蔵田裕行先生（第3期声楽）の御紹介で伴奏することとなった柱本めぐみ様（第26期声楽）より、去年の12月に他界されたご主人の柱本優先生（第24期作曲）の後任として平安女学院短期大学部保育科に勤める気はないかとお誘いを受けたのです。幸運なことに加え教授として迎えられる運びとなり、現在は教育活動、演奏活動、作曲活動と多忙な毎日を送っております。今年の秋には書きためた歌曲を出版する予定です。

こうして振り返りますと、頼もしい先輩方に支えられてこそ今の自分があることを痛感する次第です。感謝の心を忘れずに日々努力を続けたいと思っております。最後になりましたが皆様の益々の御活躍を心よりお祈り致しております。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

「新しい挑戦」

小松（安藤）友香（42期 ピアノ）

京都を離れ、横浜で暮らして6年が過ぎようとしています。私は今、横浜みなとみらいホール主催の「横浜オペラ未来プロジェクト」に参加し、すっかりオペラの世界にはまっています。このプロジェクトは、歌手、オーケストラ、スタッフ等がオーディションで選ばれ、芸術監督・指揮の村中大祐氏と芸術顧問・演出のミハエル・ハンベ氏を中心とした経験豊富な指導者・スタッフのサポートにより舞台を完成させるというものです。私はコレペティのオーディションを受けたわけですが、恥ずかしいことに、オペラの稽古がどのように進むのかやコレペティがどのような仕事をするのかを知らないで飛び込んでしまいました。幸いにも最初は特別枠として見学を許され、その後実際に参加するようになり今年で3年目になります。弾き歌いやイタリア語の勉強、その他にも課題はたくさんあるのですが、結婚出産を経験した後にもまた新しい事に挑戦できるのはとても幸せなことだと思っています。また、演奏会等で声楽や器楽の方と共演する際にも、このオペラ製作の中で経験した事が直接ではなくとも何か影響し、自分の中で変わってきた部分があるのではないかと感じているところです。日々勉強させてもらえることへの感謝を忘れず、少しでも自分をみがいていけたらと思っています。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

長谷川 智子（43期 作曲）

卒業して、早10年が経ちました。その間、子育てをしながらも、なんとか音楽活動続けてこれたのは、周囲の支えや協力と、今まで出会った恩師の方々の教えのおかげだと、常々感謝しております。

さて、卒業と同時に始め、今現在も続いている仕事場の一つに、「京都子どもの音楽教室」があります。ここは、京都市立芸術大学音楽学部音楽教育研究機関です。年少～高校生まで、今年度は140名以上の子どもたちが在籍しております。音楽の基礎となるソルフェージュを始め、リトミック、合唱、合奏、鑑賞、作曲、などの科目があり、各々のレベルや学年に応じた少人数制のクラスで学んでいます。その中には、将来音楽専門の道を考えている子どももいれば、専門ではないけれど心から音楽を楽しみたい、と通う子どももいます。私達研究員は、どの子供たちにもまず「音楽を好きになって欲しい」「音楽が人生の糧となり、生涯を音楽と共に歩んでいって欲しい」と願っています。幼児期に体験した喜び、感動は、後々の人生の活力となります。この音楽教室では、音楽を理解していくうえで必要となる基礎知識を身につけつつ、たくさんの感動や喜びを身体全体で感じる事が出来ます。その一つが、「創作オペレッタ」。題材選びから、作曲、演技、演奏まで、子ども達の手で創り上げます。形のないモノが、徐々に形となって完成していく過程と比例して、子ども達が成長していく姿は、まさに芸術！私自身、この成長を共に体感できた感動が、また次への活力となっております。

真声会 各支部活動報告

関東支部

この春は早々に桜が満開を迎えた関東地方でしたが、真声会関東支部はいつもと変わらずマイペースで活動が続けております。

昨年11月29日（木）文京シビックホールにて第12回定期演奏会を開催し、平日にもかかわらず120人ほどのお客様を迎えて盛況のうちに終えることができました。しっとりとした日本の歌、親しみのあるピアノ曲の数々、ドラマチックなオペラアリアとそれぞれの選曲には挑戦と工夫がうかがえて、中にはカンツォーネにヴァイオリンのオブリガードが付けられたもの、ピアノトリオとそこにソプラノが乗せられたオリジナルの室内楽曲が紹介されるなど、バラエティーに富んだ内容でした。実は今回当日朝になって、いつも演奏会を明るく盛り上げてくださっていたメンバーの一人が急病のためキャンセルというハプニングが発生。楽屋は騒然となりました。しかし、急遽細川裕美子さん(23期P)が入魂のショパン・英雄ポロネーズを演奏してくださり、会場、楽屋は驚きと賛美の拍手で湧きました。思わぬ事態でしたが、定期演奏会を大切に成功させたいという皆さんの思いを確かめることができましたし、また常に研鑽を積み重ねてどんな場面にも対応をというプロ意識を見せていただいた一齣でした。今年度は11月30日(日)すみだトリフォニーホールで開催予定です。

昨年立ち上げたピアノ科卒業生によるピアノアンサンブルdouxは、6月7日(土)に2回目のコンサートを開催することになりました。ピアノ科の研究会は6年目を迎え、常に2台のスタインウェイがベストコンディションにあるコンサート会場の日比谷・松尾ホールは、今やメンバーのホームグラウンドとも言えそうです。今回はラフマニノフをメインにソロから2台8手まで5人のメンバーが気持ちを合わせて演奏します。

6月9日(月)には総会及び懇親会を開催の予定です。多くの懐かしい顔ぶれがそろうことを期待しているところです。会報Harmonyも東京を拠点に活躍中の同窓生にインタビューするコーナーを開設し、ただいま編集作業真っ最中です。今後も関東支部ならではの活動を展開したいと考えております。

曾我尚江（27期Pf）
.....

京都支部

イベントを2件お知らせします。(いずれも皆様がこの記事を目にされる頃には終了しています)

第25回記念プロムナードコンサート(支部設立20周年記念)を5月18日(日)に京都コンサートホール・ムラタホールで開催します。出演者は次の方々です。

- 1

バロックヴァイオリンとチェンバロ

河内知子(35期・Vn)
中田聖子(客演・チェンバロ)
- 2

ピアノソロ

山本祐梨子(47期・P)
- 3

朗読とピアノ

西村孝子(20期・P)栗辻紀子(26期・P)
- 4

二台のピアノ

平居妙子(50期・P)増永智子(50期・P)

もう1件は、本山秀毅氏による講座「やさしい合唱指導とアンサンブル」を5月25日(日)9時45分～11時45分 呉竹文化センター・創造活動室にて開催します。日常、合唱指導に関っておられる方、興味をお持ちの方にとって好機会となる事でしょう。プロムナードコンサート出演者と本山秀毅氏のプロフィールは支部のホームページに掲載しています。

又。本年度の京都支部総会を9月7日(日)「ウイズ・ユー」にて開催します。総会の後、岩崎勇名誉教授による講演、引き続き懇親会を予定しています。

昨年度は、大学のキャンパス移転にまつわる話を伺いましたが、今回はどんなお話を伺えるのか！楽しみです。なお次回の支部報発行は、11月1日を予定しています。

京都支部長 阪田誠康（16期Pf）
.....

大阪支部

「プリリアント・コンサート2008」が、2月24日(日)午後2時から、ザ・フェニックスホールで開かれました。～ビバ! アンサンブル～とタイトルして、同窓会のコンサートらしい、そして、京芸の名に恥じないクオリティの高い内容となって会場は熱気に包まれ、成功を収めました。内容と出演者は次の通りです。

- ・G. ボッテジーニ／ソプラノ，コントラバスとピアノのための2つの歌曲「いとしい唇」「全ての世界で」

ソプラノ：池田由佳子(46期)、コントラバス：平田昭浩(42期)、ピアノ：玉江亜紀(46期)

・P. ヒンデミット／コントラバス・ソナタ 口調

コントラバス：平田昭浩(42期)、ピアノ：小田切美穂(41期)

・A. ウィルス／ソプラノ，クラリネット・オブリガートとピアノのためのソ

ネット《二人の魂が目覚め》
・L. シュポア／ソプラノ，ピアノとクラリネットのためのレシタティーヴォとアリア オペラ「ファウスト」より《私はただ一人で～貴方を何とお呼びすれば》

- ソプラノ：河村さと子(16期)、クラリネット：西川香代(45期)、ピアノ：田淵幸三(14期)

・J. ブラームス／ハンガリー舞曲 第1番～第6番

ピアノ：大岡真紀子、蜂谷葉子(共に、29期)

・F. プーランク／六重奏曲

フルート：阿野由希子(42期)、オーボエ：稲葉万姫(41期)、クラリネット：藤井麻実(46期)、ファゴット：内等すずえ(52期)、ホルン：永武靖子(49期)、ピアノ：雪原典子(25期)

支部総会は、5月31日(土)12時半から、ホテルグランヴィア大阪の「北京」で開かれます。一年のまとめ、次回「プリリアントコンサート」の開催、「プロムナードコンサート」企画、支部報発行、世話役の選出などなど、意見の交換と昼食をはさんでの和やかな集いにしたいと思っています。

大阪支部に関するお問い合わせ・入会は、事務局545-0004大阪市阿倍野区文の里4の12の25樋口博行方、電話とファクス06-6624-3425まで。(文中敬称略)
広報担当 金森重裕(6期Cl)
.....

滋賀支部

滋賀支部では4月29日に総会を持ち、今年度の活動をスタートします。昨年に設立20年を迎え、この秋の演奏会「湖(うみ)のしらべ」は第20回という記念の演奏会となります。したがって今回は出来るだけ多くの会員の出演を願い、企画に入っています。この演奏会は新人の方の紹介も兼ねてまいりますので、新人の皆さんに積極的に出演していただくのはもちろんです。

15周年では「ヘンゼルとグレーテル」の圧縮版に取り組みしました。今回は合唱組曲を室内オーケストラ規模の伴奏でやれないかと考えています。編曲も含め、支部会員の皆様のお力を借りて、質の高いステージを作っていこうと思います。日時と会場は以下の通りです。是非ご来場下さい。

11月9日(日)14：00開演
しがぎんホール

ところで、個人情報保護の観点から、新人に関する情報が大学から得られなくなっていますが、滋賀県は事務局井出氏が大学の講師をされているので、なんとか直接卒業生に声をかけてもらってますが、他府県の支部の方は、どのようにして、アプローチされているのでしょうか？機会があればお知らせください。

滋賀支部長 杉中 博（19期Tp）
.....

奈良支部

昨年11月17日に奈良市西大寺町、奈良ファミリー6階の「秋篠音楽堂」にて、第11回定期演奏会を実施致しました。このホールはデパートの6階とは思えないほど落ち着いた雰囲気で、客席も300席と中世のサロン風な優雅な会場で、京都の「青山バロックザール」に似て、ソロやアンサンブルに最適です。第一ステージの「バロック・アンサンブル」竹吉さやか(33期Vn.)と井上佳代(リコーダー)中出悦子(チェンバロ)森佐介(チェロ)4名のグループは、この会場にふさわしく大変印象的でした。あとは室内楽が二種とピアノソロ3名(お名前は前号に記載)で、いずれも京都芸大卒業生の持ち味「誠実、勤勉さ」に満ちた立派な演奏でした。

今年もまた同じく「秋篠音楽堂」で10月4日(日)に第12回の演奏会を予定しております。出演者はテノール：佐藤謙蔵(35期)、打楽器：前川典子(39期)、ヴァイオリン：野寺弘美(43期)共演：玉井幸子(39期ピアノ)、ピアノソロ：山口暁子(42期)の皆さんです。10月4日は「奈良・秋篠」とマークしておいて下さい。

6月15日(日)にサロン・コンサートと平成20年度の総会を宇陀市榛原区の藤村久美子(16期P)邸の「ヴィエール・ホワイエ」で実施します。こちらは都心から離れた別荘のような素敵なサロンで、現実の雑踏を忘れてしまえる空間です。藤村さんは、毎年優れた演奏家との共演や生徒さんの勉強会を度々開いておられます。

真声会本部は昨年役員が変わって男性が多くなり、拡大委員会を開かれるなど、力強い運営になっていくようです。奈良支部も6月に役員の改選がありますので、本部よりの良い刺激を受けて、京都芸大卒業生の真価を発揮し益々充実した会となることを期待しております。

奈良支部長 三村光子(4期Pf)

京 芸 だ よ り



研究室訪問一折江忠道先生

2007年10月に声楽の准教授として着任された折江忠道先生の研究室をこの春訪問し、お話をお聞きすることができました。

一この2月の大学院オペラ公演は素晴らしかったですね。本当に心から感動しました。公演当日は雪の降るとても印象的な日でした。

(折江)それは本当に嬉しいです。マスカーニの友人フリッツですね。着任して学生に求めたことは、模範生であるな、絶対に逃げるな、ということでした。持てる力の限界ぎりぎりのところで勝負する。自分も現役のオペラ歌手として絶対逃げるができないなかでやっていることをみせ、そこで徹底させたのは失敗することを恐れるな、恥ではない、逃げるな、ということです。それがものの見事に彼らの共感を呼び、彼らの成長をみました。半年間の学生の変化は大きかったです。舞台の上は所詮うそ、けれども、そのなかに真実、がある。各自が生活のなかで得たものが舞台上で爆発する、それが観客の心を打つ。僕は彼らの舞台を観て泣けて仕方がなかったです。二回目の授業から学生目の輝きが変わってきて、彼らは限界を見つけて、逃げるのでなく限界を超えようとした。そして限界に直面したとき、本番までに全員が泣いた、そして舞台を終え、限界を克服したときの涙。学生の質が本当にいい。才能と情熱のバランスが取れていて、そこに刺激を与えた時の彼らの反応のよさ。私の基本姿勢は、先生とってくれるな、仲間、同志とってくれ。そうして自分の心を開いたとき、彼らもすべてを開いてくれ、心が洗われました。限界を正直に見据え向かってゆくとき、何かが変わる。ありのままの姿をみせる。限界をみせ、限界を高めてゆきたい。オペラの根源にあるものは、人間同士の愛。若い人は本当に素晴らしい。教員として本当に、与えられた京芸のこの場をこころより感謝しています。還暦まで後2年、12月までに6本のオペラがあり、身体に気をつけていきます。みなさんとの巡り合いに運命を感じます。与えられた縁に恵みを感じ、命あるかぎり共に光輝いてゆきたいと思います。

一先生とお話しできましたことは素晴らしい時間でした。今日は本当にありがとうございました。

(中村 典子 記)



研究室訪問一谷村由美子先生

2007年4月に声楽の専任講師として着任された谷村由美子先生の研究室をこの春訪問し、お話をお聞きすることができました。

一着任されて一年、現在の所感をいただけますか。

(谷村)初めて教職について19人の学生さんと日本歌曲演習を担当して一年が経ちました。あっという間の月日でした。今年はそれにあわせて4回生オペラの授業も担当することになり、経験豊富な折江先生の隣で私も沢山のことを吸収しながら、私らしさを出しつつやっていければいいなと思っています。担当している学生さんたちは声楽専攻と副科のさかいなく、大きな家族のよう感じています。沢山のことを刺激しあって、お互いを高めあっていけるような、そんな関係を築いて欲しいです。

一12年前になりますが、オペラ・シンデレラを大学で歌われ、当時から光っておられました。

(谷村)ありがとうございます。4回生のときですね。学生ではありましたが、何かしら伝えられたのでしょうか。覚えていただいていたとても嬉しいです！

一話題のラ・フォル・ジュルネにも登場、日本、ヨーロッパで活躍されています。

(谷村)フォル・ジュルネは大変な音楽祭で、今回は5つのプログラムで8回の公演です。ほとんど現地でリハーサルの時間のない中、一日に2回歌いますが、4年来頻繁に共演している指揮者（ミシェル・コロボ氏）だからなんとか出来ます。気力と体力の限界に挑戦するときも多いですが、歌手としての自分と教職とのバランスを見つけて、何かしら学生さんにダイレクトに伝えることができるといいなと思います。

一京都芸大について語っていただけますか。

(谷村)ものすごく質がいい、生徒一人ひとりまでしっかり目の届く素晴らしい大学だと思います。世界の舞台で京芸の卒業生に会うことも多く、そんなときは嬉しいです。そしてなによりご一緒させていただいている先生方や事務の方々にとっても感謝しています。一番年若ですが、あたかくサポートいただいています。

一学生の皆さんに一言。

(谷村)楽譜だけではなく外へ出て光を感じて、沓掛だけでなくいろんな場所でのいろんな刺激を受けてほしいですね。現代社会の中でとすれば後回しにされがちな分野だからこそ、一人ひとりがその人なりのかたちで、音楽・芸術の素晴らしさを伝えていける存在になってもらえると嬉しいです。

一今日はお話、本当にありがとうございました。

(中村 典子 記)

京都芸大の卒業生への想い

常森 寿子（名誉教授）

京都芸大を離れて早や一年が過ぎました。無事に過ごすことが出来た京芸での19年を感謝の気持ちで思い返しています。

私が京芸とご縁を持ったのは47歳の時でした。それは昭和が終り平成時代になる時でもありました。私の音楽の道に京都芸大での教員という道が加わった時、それは私自身の実力を見つめなおすことにもなりました。大学で教えるということの責任には演奏活動とは違う重さがありました。

私自身にも演奏家となるまでには沢山の先生方との出会いがあり、そのお一人お一人に強い印象を今でも持っております。

18歳で大学に入学してくる学生にとって大学での授業は良くも悪くも強い影響を与えます。特に音楽大学での学生と教師の関係は、個人レッスンという授業形態からとても濃い関係が生じます。教師としての私の指導が一对一で学生に伝わってゆく責任の重さは大きく、音楽を通じ人間性まで問われているような厳しい気持ちにさせられ緊張の連続でした。

しかしその指導がなんらかの成果を現した時の喜びも本当に大きいものでした。

一方で指導困難な状態に陥るときもあり、こちらが泣きたいと思うこともありました。(泣かせてしまった学生にはこの場をお借りして謝りたいと思います)

けれど学生には若さがあり回復力も早く悩める教師の心を何度となく慰めてくれました。

19年の間に手元から巣立っていった人たちはそれぞれの道を幸せに歩んでいるものと信じます。

私の定年退職を祝って18年前の卒業生を含め50人を超える卒業生が集まってパーティーを開いてくれたことは一生忘れることの出来ない思い出となりました。

音楽家としての人生に京都芸大での教師生活が加わり、沢山の学生と音楽を共有できた幸せを感謝しています。

福島 明也（前助教授）

「原稿を書いて」と頼まれて安請け合い、二つ返事で引き受けて必ず後悔して自己嫌悪。何度も経験してははずなのにまた引き受けて…。「芸大の事は沢山書くことがあるから」とたかをくくっていたら、メ切りぎりぎりまで焦りに焦って書いている…。日頃『明日出来る事は今日するな』とうそぶいているつけが苦しむはめに。こんな私が芸大で声楽専攻の実技と共に、4回生オペラと大学院のオペラの授業を担当し、毎年2月には4回生はオペラ試演会、大学院はオペラ公演として芸大の講堂に於いて演奏を重ねてきた。「まあ、何とかなるやろ?」という楽観的な私を回りの皆が心良く?かどうかは解らないが、サポートして下さったおかげで無事6年間務まったのだと今改めてそう思う。

一人では何も出来ないのだと。

在職中に芸大大学院オペラは第20回という節目と20周年の節目とを連続して迎えた。20回記念では、阪哲朗氏に『フィガロの結婚』を2日間公演するから棒振って～」と無礼にも程がある頼み方に、心良く?引き受けて貰い、講堂が2日間立ち見も出て超満員。20周年記念公演では場所を京都会馆へ移した為、学部長先生や事務の方々の仕事を増やしに増やし、声楽専攻の先生方には公演参加を必須とし、他専攻の先生方には『魔笛』公演の成功と京都会馆満席祈願成就の為に、舞台への参加を半ば強要する形をお願いし、非常勤の先生方も巻き込み、更には名誉教授にコンサートマスターを勤めて戴き、本学学生は元より、他大学の学生さん達、芸大OB、OG達の協力も仰ぎ、各関係者全ての方々のお陰を持って大盛況の内に2日間の公演を終える事ができた。感謝です。短い在職期間で、他の誰よりもこの上ない充実した大学生活を過ごしたのは私です。ありがとうございました。末筆になりましたが、芸大の更なる発展を心よりお祈り申し上げます。

・・・言い忘れたことば。退職にあたって・・・

大西 多恵子（10期 声楽）

3月23日「平成19年度卒業修了祝賀パーティー」この日は私にとっての卒業式でもありました。本学との深い縁は延べ47年になります。昭和40年専攻科卒業、45年に非常勤講師に採用されてから今日まで、母校特有の暖かい雰囲気、学生気分を横溢させて務めて参りましたが、とうとう65歳の定年を迎える感慨深い一日になりました。終宴近く、突然のご指名で、光栄にも花束を頂戴し、何か一言するという事になりましたが、急なことで舌足らずでございました。そこで大変僭越とは存じますが、紙上をお借りして、一部私事にも亘りますがお許しを頂き、私の想いを述べることに致します。

私の子どもは、生後5ヶ月で脳に傷を受け、発達障害児としての人生を歩み、20歳を前に他界してしまいました。音楽が大好きなエンゼルのような男の子でした。育児の課程で学んだ事が数多くあります。昨日出来なかった事が、また1ヶ月前に出来なかった事が、今日出来るようになっていく。小さな進歩、成長発達を見る事が、私の大きな喜びになりました。

演奏も同じで、半年前、1年前、5年前に出来なかったテクニックや表現。理解できなかった事柄等に…。練習の成果が生まれた時の喜びは、体験した者だけの至福でしょう。

小さな進歩をしっかりと見つけ大切にして下さい。こんなに何百回も練習したのに未だ出来ないとか少しも上達しないとか考え込まずに、練習を勉強を続けて欲しいのです。

私のレッスン方法も、長所を探してそれを伸ばすのを第一にするようになって参りました。伸び盛りの若い人達には、少々物足りないかも知れませんが、その時、出来る精一杯の力が大事なのです。がっかりしたり落ち込む必要は全くありません。そしていつの日にか、思いがけない飛躍があなたを待っているのです。

長い人生、色々な事がありましよう。親にとって我が子が元気でいる事、生きている事が無上の幸福なのです。毎日を喜んで楽しく過ごして下さい。「あなた方は宝です。親より先に死んではいけません。」これが、卒業式に捧げる私の言葉です。

最後に、大学での近親の友人、先生方やお世話になった皆様に御礼を申し上げねばなりません。私的な事なので障害児の親だということを秘していたわけではありません。長年、コンサートで歌い、レッスンをしている私を気遣い見守って下さった皆様方の暖かいお気持ちを、今更ながら感じ取っております。よく定年の今日まで楽しいお付き合いを賜りありがとうございました。これからは、いつまでも小さな上達を楽しみに歌い続けて参ります。

『退官にあたって思うこと』

小室 彰子（10期 声楽）

岡崎から沓掛へ、37年の芸大非常勤講師生活の幕が無事降りました。高校の合唱部で歌っていた私は、音楽の先生や先輩に勧められて、高校二

年の秋から声楽を始め、あまり準備も出来ないままに京都市立音楽短期大学に入学しました。専攻科に入った頃から、やっと『歌う』ことに目覚めてきた様に思われます。

振り返ると、あつと言う間だった様な気さえしますが、この解放感からすると、『京芸で教える』と言うことは、かなりの緊張を伴う日々だったのでしょう。

学生時代の岡崎の疎水の桜・武徳殿・平安神宮・教室のダルマストーブ・レッスン室の火鉢と藪蚊。講師を始めた当時の隣の音が筒抜けのプレハブレッスン室・石油ストーブ等、古き良き時代が懐かしく思いだされます。そして、沓掛のエアコン付きの快適なレッスン室。昔は、手書きの楽譜も、あつという間にコピー！音源も多数有り、今の学生は、随分恵まれています。

お世話になった先生方、先輩、同僚、音楽仲間本当に有り難うございました。

沢山の学生や院生との出会いがありました。学生達は、押し並べて真面目で、勤勉でした。私自身も沢山学び、成長させて貰ったと思っています。京芸の卒業生は、日本国内、いいえ世界に羽ばたいていっています。優れた才能を持った人達が、卒業後、もっともっと努力して、自分と音楽との関わりを『強』にして、今以上に「ここに、京芸生有り！」と存在を示していつて欲しいと思っています。

あなたは今「音楽していますか？」「人の心を癒す音を奏でていますか？」私も、いつも心温まる音楽を求めていますと思っています。
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

今年度より4名の会員の方が母校の教員として活躍されています。

日紫喜恵美（ソプラノ、30期）

京都市立芸術大学大学院修了。在学中、文化庁芸術家国内研修員。第1回大学院賞を受賞。オーストリア政府給費留学生として、モーツァルテウムに留学。その後、ロータリー奨学生としてミュンヘン音楽大学に留学。日本モーツァルト音楽コンクール第1位、併せて洗足学園前田賞金賞。日本音楽コンクール第2位。バルセロナ国際コンクールでコロラトゥーラ・ソプラノ賞。第1回青山音楽賞。トウルーズ国際コンクール聴衆賞としてフランスでリサイタルを開催。ベルギー国際声楽コンクール第2位。京都音楽賞・地域活動部門賞。京都市芸術新人賞・藤堂頭一郎褒章。リサイタルに対し音楽クリティッククラブ賞などを受賞。

近年では、ハンガリー、チェコ、ブルガリア・ソフィア音楽祭、サンクトペテルブルク、韓国・FIFA公式演奏会をはじめ、ドイツ、オーストリア、スイスなど7カ所で『リゴレット』を主演、佐渡裕指揮、宮本亜門演出のミュージカル『キャンディード』ヒロイン、小澤征爾指揮『ジャンニ・スキッキ』にホセ・ファン・ダム氏らと出演。新国立劇場に於いて『ナクソス島のアリアドネ』ツェルピネッタを好演するなど、華麗なテクニックと豊かな情感を持ち、圧倒的な感銘を与えるコロラトゥーラ・ソプラノとして注目される。関西二期会会員。相愛大学、相愛高校非常勤講師。京都市立音楽高校非常勤講師。

福原寿美枝（メゾ・ソプラノ、33期）

京都市立芸術大学音楽学部声楽専修卒業、卒業時音楽学部賞を受賞。同大学院音楽研究科修了。第10回友愛ドイツリートコンクール第2位、第69回日本

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

 つつしんでお悔やみ申し上げます

これからも灘井誠先生を慕って

石原 祐介（46期 声楽）

今、私の手元に一枚のCDがあります。題名は、「灘井誠バリトンリサイタル」。昨年12月8日に亡くなられた、灘井誠先生の在りし日の演奏を、ご家族の皆さんがCDにされたものです。ウィーン留学中に師事された、ワルター・モア氏の伴奏による、二度のリサイタルを一つにまとめたこのCDを聞くと、学生時代のレッスンで先生がおっしゃっていた言葉がつい昨日のこのように思い出されます。

私は、23歳の時に憧れだった声楽家を目指すことになり、先生のお世話になりました。コンコーネや、古典イタリア歌曲集第1巻を一から始める私のために、先生は歌に対するご自身の深い見識を余すところなく教えてくださいました。また、はれて芸大生になり、緊張感も薄れていた私は、ほとんど譜読みもしないままレッスンに行くこともありましたが、先生は決して怒らず、常に一生懸命教えてくださいました。時には、全く中身の無い歌を歌う私のために、その曲がもつ精神性を熱く語ってくださったこともありました。

大学3回生の時、シューマンの「詩人の恋」全曲のレッスンを受けました。45分のレッスン時間で2曲ほどしか進めない時もあるほど、歌の中身に、言葉の一つ一つにこだわったレッスンでした。当時の私はその内容をなんとなく理解はできても、それを表現することができませんでした。前述のCDに収録されている「詩人の恋」を聴きながら私は、先生のおっしゃっていた言葉を深く理解できずにここまできた自分の不明さと、あの時の感動的なレッスンをもう受けることができない、歌い手としての心細さと、そして温かいお人柄の、まるで父親のような存在だった先生にもう二度と会うことができない悲しさに涙を抑えることができませんでした。

最後に、先生が私達門下生におっしゃっていた言葉を紹介させていただきます。「聴衆の中のたった一人でいいからあなたの歌を聴いて涙してくれる歌を歌いなさい。」

いつまでも忘れずに歌い続けていこうと思います。
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

柱本優くんを悼む

上田 益（25期 作曲）

彼と私が京都芸大に入学したのは、今から30年余り前の事になります。当時の音楽学部は左京区岡崎の地にあり、平安神宮に隣接していました。大学の建物といっても古い武道場の跡を活用していて、外観はお寺のようでもあり、音楽を学ぶ場だという事をとても想像できないような場所でした。彼と私は同じ作曲専修。一見ミスマッチのようなキャンパスで、設備的にもけっして整っていたわけではありませんが、生まれ育った環境に「お寺」

音楽コンクール入選。数多くのジョイントリサイタル及び、日本演奏家連盟主催によるリサイタルを開催。神戸アーバンオペラ公演ビゼー「カルメン」ではタイトルロールを歌い好評を博す。また、ケルン市立歌劇場との共同制作による関西二期会創立40周年記念第59回オペラ公演R・シュトラウス「ばらの騎士」においてオクタヴィアン役を、2005年ワーグナー「タンホイザー」においてヴェーヌス役を2007年R・シュトラウス「ナクソス島のアリアドネ」において作曲家を好演する。新日本フィルハーモニー交響楽団バッハ「ロ短調ミサ」でボッセ氏と共演。NHK交響楽団定期演奏会モーツァルト「レクイエム」でアシュケナージ氏と共演。バッハ「マタイ受難曲」「ヨハネ受難曲」「マニフィカート」、ヘンデル「メサイヤ」、モーツァルト「レクイエム」「戴冠ミサ」、ベートーヴェン「第九」「莊厳ミサ曲」、ドヴォルザーク「スタバート・マーテル」、ブラームス「アルトラブソディー」、マーラー「大地の歌」等、教会音楽、ソリストの分野でも活躍。現在、神戸市混声合唱団団員、関西二期会会員、神戸フォーレ協会会員。

萩原次己（バリトン、33期）

滋賀県出身。石山高等学校音楽科を経て、京都市立芸術大学音楽学部及び同大学院音楽研究科を大学院賞を得て修了。86年フランス歌曲コンクール総領事賞受賞。95年友愛ドイツリートコンクール第1位、同時に文部大臣奨励賞及び最優秀賞を受賞し、翌年ウィーンにて研修及び演奏会に出演する。97年平和堂財団芸術奨励賞、第67回日本音楽コンクール声楽部門第3位、第7回J・S・G.国際歌曲コンクール入選。また日演連主催のリサイタルの成果に対し、平成15年度大阪文化祭奨励賞を受賞する。これまでに、著名なピアニストやオーケストラと共演する他、モーツァルトの4大オペラ作品をはじめ、「カルメン」「ボエーム」「こうもり」「ヘンゼルとグレーテル」「アマルと夜の訪問者」等の他、近代オペラの「ヴォツェック」「王様と賢い女」に出演する。合唱作品ではバッハの「マタイ受難曲」「ヨハネ受難曲」、フォーレやブラームスの「レクイエム」、また「カルミナ・ブラーナ」や「メサイア」「第九」、その他多くの「ミサ曲」のソリストとして出演している。現在、神戸市混声合唱団団員として神戸市を中心に、またザ・カレッジ・オペラハウス合唱団団員としてオペラハウスでの演奏会に、それぞれ定期的に出演している。故 河本喜介、三井ツヤ子の各氏に師事。現在、京都女子大学、同志社女子大学、京都市立芸術大学各声楽非常勤講師。関西二期会会員。

池田明子（作曲、48期）

京都市立芸術大学音楽学部作曲専攻卒業。在学中より、室内楽作品のほかミュージックコンクレート作品、パフォーマンスのための音楽、コンテンポラリーダンスとのコラボレートや舞台音楽の作曲・制作を行う。京都芸術祭に作曲作品を出品。室内楽楽曲作品の委嘱作曲や編曲を手がけるほか、様々な音楽企画やイベント、コンサートのプロデュースを行う。現在、京都市立芸術大学音楽学部非常勤講師。京都市立下鳥羽小学校、久我の杜小学校音楽、京都市立神川中学校非常勤講師。京都市立芸術大学音楽学部音楽教育研究会「京都子どもの音楽教室」特別研究員（常勤講師）。兵庫県立芸術文化センター総監督佐渡裕主宰「スーパーキッズオーケストラ」の運営を担当する。

という共通項を持つ私たち二人は、同じ時代を共有し、お互いある種の親近感を持ちながら学生生活を送っていたように思います。

煙草をくゆらせる姿が粹で、ピアノの演奏も達者でした。ある雨の日、傘をさしながらメシアンピアノ曲の楽譜を小脇に抱えていた光景は、なぜか今でもよく覚えています。

落ち着いた雰囲気と飄々としたしぐさが同居する不思議な魅力を持つ人物。それが私にとっての柱本くんでした。

15年ほど前に和歌山県の高野山で偶然に出会って以来、会う機会の無いまま突然彼の訃報に接し、やはり無念さを感じています。

作曲活動も精力的に行っていた彼ですから、まだまだ表現したいことはたくさんあったでしょう。でも今は「ゆっくり休んで下さい」という言葉を、追悼の言葉として送りたいと思います。

心からご冥福をお祈り致します。
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

小林克人さんを悼んで

中村 典子（32期 作曲）

小林克人さんの追悼文をこうして書くことになるとは、本当につらいことです。

同級生のかっちゃんが大阪四季劇場で劇団四季の人気俳優としてオペラ座の怪人のフィルマン役で大活躍する公演を私達は昨年観る筈でした。しかし、私達のなかにめぐったのは、かっちゃんの激しい闘病の知らせでした。そして彼は2007年9月10日、東京で、天まで人生を3倍速で駆け抜けていきました。43歳の熱く輝いた生涯でした。

同期のかっちゃんは、入学した日、知り合った作曲専攻全員（加藤ユミコさん、大槻勝則さんと私）を郷里堺での公演（それは彼の専攻の声楽でなく、高校の時に関わっていたプラスの公演でした）に連れていく約束を取り付けるほど、専攻も、出身地も、性別も、年齢も、なにもかも音楽のうちに越えてしまう人なつっこさと大きな人間的な魅力で、私達をその日のうちにがっちりとかまえてしまいました。

郷里堺、京都芸大、そして留学先のウィーン、そして日本全国の小林克人さんに出会ったすべてのひとが、その愛すべき人間性の発露であるもの凄いエネルギーの放射を浴びた筈です。

東京に転居した同期の声楽の飯屋広子さんは彼を見舞い、私も入院先のすぐ近くの演奏会のあと見舞うことが出来たのは、まさに彼の、専攻も性別も越える、なにかとても不思議な大きなエネルギーがそうさせてくれたのかも知れません。

かっちゃんが私達をいつまでも大きなエネルギーで見守っているように感じています。ありがとう、そして、私達はいつまでも仲間です。

～定期演奏会をぜひ聴きにいらしてください～

来る7月6日午後2時より、京都市立芸術大学音楽学部第129回定期演奏会が京都コンサートホール大ホールにて行われます。今回は、ドイツ音楽の精髓と邦人作品による密度の高い午後を増井信貴指揮でお楽しみいただきます。

シューベルトの未完成でない三楽章の『未完成』交響曲、中村淳二（4回生）のフルート独奏で尾高尚忠のフルート協奏曲、そして締めくくりにブラームスの交響曲第4番をお送りいたします。

卒業生の皆様、ぜひ在学生の演奏をお聴きください。真声会の会員の皆様は、無料でご入場いただけます。会場受付にて卒業・修了期、専攻、お名前をお知らせください。ご来場をこころよりお待ちしております。

響ノ都プロジェクト
京芸ルネッサンス2008・コンサートシリーズ

●京都市立芸術大学音楽学部 第129回定期演奏会

日 時： 平成20年7月6日（日）
午後2時開演（午後1時開場）

会 場： 京都コンサートホール・大ホール
地下鉄烏丸線北山駅下車1番出口すぐ

曲 目： F. シューベルト／
交響曲第7番(旧第8番) ロ短調 D. 759 「未完成」

尾高尚忠／フルート協奏曲 作品30b

J. ブラームス／交響曲第4番 ホ短調

出 演： 指揮 増井 信貴

フルート独奏 中村 淳二

管弦楽 京都市立芸術大学音楽学部管弦楽団

入場料： ￥1200

主 催：京都市立芸術大学

詳細お問い合わせは京都市立芸術大学 教務課 075-334-2222
WEBマガジン「沓音」 <http://w3.kcuu.ac.jp/~callope/kutsuoto/>

響ノ都プロジェクト
京芸ルネッサンス2008・コンサートシリーズ
年間スケジュール

京大時計台記念館コンサートシリーズ1

日時：2008／5／11 Sun 午後3時開演（午後2時30分開場）

会場：京都大学百周年時計台記念館 百周年記念ホール

入場料：無料

京都国立近代美術館ホワイエコンサートシリーズ サマーナイトコンサート

日時：2008／6／7 Sat 午後6時開演

会場：京都国立近代美術館ホワイエ

入場料：無料

第22回ピアノフェスティバル

日時：2008／6／11 Wed 午後7時開演（午後6時30分開場）

会場：京都府立府民ホールアルティ

入場料：無料

ウエスティ「音暦」

日時：2008／6／28 Sat 午後2時開演（午後1時30分開場）

会場：京都市西文化会館 ウエスティ

入場料：無料

第129回定期演奏会

日時：2008／7／6 Sun 午後2時開演（午後1時開場）

会場：京都コンサートホール・大ホール

入場料：1,200円

京都国立近代美術館ホワイエコンサートシリーズ オータムナイトコンサート

日時：2008／10／11 Sat 午後6時開演

会場：京都国立近代美術館ホワイエ

入場料：無料

ウエスティ「音暦」

日時：2008／10／12 Sun 午後2時開演（午後1時30分開場）

会場：京都市西文化会館 ウエスティ

入場料：無料

文化会館コンサート1

日時：2008／11／6 Thu 午後7時開演（午後6時30分開場）

会場：京都市北文化会館

入場料：無料

京大時計台記念館コンサートシリーズ2

日時：2008／11／9 Sun 午後3時開演（午後2時30分開場）

会場：京都大学百周年時計台記念館 百周年記念ホール

入場料：無料

ウエスティ「音暦」

日時：2008／11／22 Sat 午後2時開演（午後1時30分開場）

会場：京都市西文化会館 ウエスティ

入場料：無料

第130回定期演奏会

日時：2008／12／6 Sat 午後7時開演（午後6時開場）

会場：京都コンサートホール・大ホール

入場料：1,200円

京都国立近代美術館ホワイエコンサートシリーズ クリスマスコンサート

日時：2008／12／20 Sat 午後6時開演

会場：京都国立近代美術館ホワイエ

入場料：無料

第131回定期演奏会

日時：2009／1／15 Thu 午後6時開演（午後5時30分開場）

会場：京都市立芸術大学講堂

入場料：無料

文化会館コンサート2

日時：2009／2／16 Mon 午後7時開演（午後6時30分開場）

会場：京都市北文化会館

入場料：無料

第24回大学院オペラ公演

日時：2009／2／21 Sat 時間未定

会場：京都市立芸術大学講堂

入場料：無料

第38回卒業演奏会

日時：2009／3／21 Sat 午後2時開演（午後1時30分開場）

会場：京都市立芸術大学講堂

入場料：無料

2008年度 その他の演奏会

京都市立芸術大学音楽学部演奏旅行 京都公演

日時：2008／9／20 Sat 午後2時開演（午後1時30分開場）

会場：京都市西文化会館 ウエスティ

入場料：無料

真声会からのお知らせ

去る4月27日（日）にザ・パレスサイドホテルにて、拡大運営委員会及び役員会が開催されました。東京からは島津與外次関東支部長（5期声楽）が、また、この3月卒業の53期（作曲）嘉勢太務会員まで、35名の役員、年度委員に出席をいただき、真声会の現状報告と会員名簿作成、会費納入について熱心に討議がもたれました。

*会費納入について

現在、年会費は銀行引き落としにて3000円、終身会費は郵便振替にて50000円を納入いただくこととなっております（会則の補則による）。但し、現在は諸事情で年会費の郵便振替等も受け付けております。

皆様、本年度の会費納入はお済みでしょうか。まだの方は、下記の要領で納入ください。今まで納入が滞っている方も、まずは今年度分の会費を納入くださいますよう、お願いいたします。

- ・郵便振替口座 01070-4-16071 真声会
- ・銀行引き落としにつきましては、基本的にはどの銀行、信用金庫、組合（農協など）からでも引き落としできます。南都銀行の口座振替依頼書に、銀行口座等記入いただき、銀行口座の届け印の捺印が必要です。

何かご不明な点等ございましたら下記までお気軽にご質問等お問い合わせください。

〒635-0093 奈良県大和高田市磯野町18-4
菊田義典（42期 声、会計収入担当）
TEL 0745-52-8450 FAX 0745-25-1630
E-mail dummdummertenor1971@ybb.ne.jp
（但し、電話は平日日中はほぼ不在です）

*2008年度版名簿作成について

現在、4年に一度発行の真声会名簿の作成準備に取りかかっています。前回の発行時、個人情報保護の観点から備考欄の記載をすべて消去したのですが、その後色々なご意見をいただき、今回復活させることとなりました。年度役員を通して、現在、会員の皆様の情報を集めております。精度の高いものを目指しておりますので、住所変更等ございましたら、各年度役員もしくは真声会本部までご連絡ください。ご協力お願いいたします。

*会員の皆様へ寄稿のお願い

今号より、新企画「4年で100人《会員だより》」が始まりました。今回は、無作為に選ばせていただいた会員の中から、8名の方が寄稿してくださいました。どうもありがとうございました。会員相互の交流の場として、今後もこのコーナーを続けていきたいと思っています。次回以降、皆様の元へ原稿依頼が届きましたら、ぜひご協力お願いいたします。

真声会会員のコンクール等受賞者

- 第13回みえ音楽コンクール（平成19年10月7日 三重文化会館大ホール） 声楽部門大学生・大学院生の部 第1位 岡田文化財団賞
大学院1回生 声楽専攻 田中 千佳子
- リエクサ国際トランペットコンクール（平成19年7月27日～8月2日 リエクサ／フィンランド） 第3位
平成16年度卒業 管打楽専攻（トランペット） 菊本 和昭
- 全日本学生音楽コンクール大阪大会（平成19年10月29日 ザ・フェニックスホール）第1位
大学院1回生 声楽専攻 浦田 恵子
- 国際心理物理学会（International Society of Psychophysics）
第23回国際心理物理学会議（Fechner Day 2007）（平成19年10月20日 国際交流館） 学生賞
大学院博士（後期）2回生 音楽学専攻 饗庭 絵里子
- 国際心理物理学会（International Society of Psychophysics）
第23回国際心理物理学会議（Fechner Day 2007）（平成19年10月20日 国際交流館） 学生賞
大学院博士（後期）2回生 音楽学専攻 田中 里弥
- 学会誌論文掲載（Acoustic Science and Technology edited by the Acoustical Society of Japan）
論文題目 Perceptual judgment in synchronization of tow complex tones: Relation to the cochlear delays.
大学院博士（後期）2回生 音楽学専攻 饗庭 絵里子
- 日本音響学会 秋季研究発表会（平成19年9月13日～15日） ポスター賞
大学院博士（後期）2回生 音楽学専攻 饗庭 絵里子
- 第24回日本管打楽器コンクール（平成19年11月25日 バリオホール） ファゴット部門 第3位
4回生 管打楽専攻 山下 菜美子
- 第24回日本管打楽器コンクール（平成19年11月25日 バリオホール） チューバ部門 第1位
平成13年度卒業 管打楽専攻 次田 心平
- 2007年メシアン国際ピアノコンクール（平成19年11月26日～12月3日 パリ音楽院 シテ・ド・ラ・ムジク） 第3位 サラベール財団賞, デュラン出版社特別賞
教員 岡本 麻子
- 第21回京都芸術祭 音楽部門「デビューコンサート」（平成19年10月8日 京都府民ホールアルティ） 京都芸術祭新人賞
大学院1回生 器楽専攻（ピアノ） 佐竹 裕介
- 第13回KOBЕ国際学生音楽コンクール（平成20年1月13日） 優秀賞 神戸市民文化振興財団賞
2回生 声楽専攻 大塚 真弓
- 第9回ショパン国際ピアノコンクールin ASIA（平成20年1月10日 浜離宮朝日ホール） アジア大会, 学生部門 銀賞 全国大会, 大学生部門 金賞
2回生 ピアノ専攻 松尾 紗里
- 大阪ピアノコンクール（平成19年12月21日 阿倍野区民ホール） 第2位
4回生 ピアノ専攻 岩井 理沙
- 第17回青山音楽賞（バロックザール） 音楽賞（作曲）
平成9年度 大学院 作曲専攻卒業 平野 一郎
- 第17回ABC新人コンサートオーディション本選（平成20年3月11日 大阪音楽大学 カレッジオペラハウス）「第17回ABC新人コンサート（大阪シンフォニーホール）」への出演（6月14日）
大学院1回生 器楽専攻（ピアノ） 川原 慎太郎
- 第45回なにわ芸術祭（平成20年4月16日・17日 大阪 いずみホール） 新人賞
平成19年度大学院卒業 声楽専攻 河出 綾子
- 第14回全日本ジュニアクラシックコンサート 本選（平成20年3月26日 日暮里サニーホール） 審査委員賞
4回生 声楽専攻 向井 悠

真声会後援の演奏会

【これから開催される演奏会】

♪煌(きらめき)デュオ・コンサートVol.3

出演：北村奈美(39期Vn)、三村哲子(39期Pf)
曲目：ヘンデル ヴァイオリンとピアノのためのソナタ ヘ長調Op.1-12
ブラームス ヴァイオリンとピアノのためのソナタ第2番イ長調Op.100
ベートーヴェン ヴァイオリンとピアノのためのソナタ第9番Op.47「クロイツェル」
日時：2008年6月29日(日)14:00
会場：ベルギー・フランドル交流センター
(大阪国際交流センター内)

♪トリオ・フォンターナ 結成10周年記念公演

出演：久保由佳子(26期Vn)、佐々由佳里(30期Pf)、
山下泰資(Vc)
曲目：ラヴェル ピアノ三重奏曲イ短調
ラヴェル ヴァイオリンとチェロのためのソナタ
他

日時：2008年7月20日(日)15:00

会場：泉の森ホール 小ホール

♪レ・フレール・カルテット サマーコンサート ～クラリネットと共に～

出演：野田祐介(CI)、鈴木梨津子(24期Vn)、
伊澤真帆子(Vn)、堀江冬子(Va)、
元吉元子(Vc)

曲目：ブラームス クラリネット五重奏曲
ラヴェル 弦楽四重奏曲
モーツァルト 弦楽四重奏曲K.155

日時：2008年7月27日(日)14:00

会場：大田区民ホール アプリコ小ホール

♪陣門華子ピアノリサイタル ーBon voyage!ー

出演：陣門華子(47期Pf)
曲目：プーランク ナザレの夜
デュティユー 3つの前奏曲
ドビュッシー 前奏曲集第2巻

日時：2008年8月2日(土)14:00

会場：山村サロン(JR芦屋駅前ラポルテ本館内)

♪井上隆平ヴァイオリンリサイタル

出演：井上隆平(40期Vn)、山口博明(41期Pf)
曲目：ヒンデミット ヴァイオリンソナタ ホ調
イザイ 無伴奏ヴァイオリンソナタ第3番ニ短調Op.27「バラード」
フランク ヴァイオリンソナタ イ長調

日時：2008年9月5日(金)19:00

会場：青山音楽記念館バロックザール

♪ジョイントコンサート 音楽する仲間たち

出演：柴坂奈津子(51期Vo)、斎藤紗綾華(51期Pf)、
松岡あゆ美(53期Vo) 他

曲目：ベッリーニ 《カプレーティとモンテッキ》より「ああ幾度か」
フォーレ ネル、イスパーンの薔薇 他

日時：2008年9月20日(土)19:00

会場：京都府民ホールアルティ

♪松本恵理ピアノリサイタル

(財)青山財団助成公演

出演：松本恵理(39期Pf)
曲目：ハイドン アンダンテと変奏曲 ヘ短調Hob.jx vii:6
ドビュッシー 映像第1集
シューベルト ピアノソナタ第20番イ長調(遺作)D.959
他

日時：2008年9月23日(火)14:30

会場：青山音楽記念館バロックザール

♪小川真由美ピアノリサイタル

演連コンサートOSAKA52

出演：小川真由美(42期Pf)
曲目：ブラームス 4つのバラードOp.10
ドビュッシー 2つのプレリュード 他
日時：2008年11月28日(金)19:00
会場：いずみホール

【既に開催された演奏会】

♪姫野真紀 1コインコンサートV.4

出演：姫野真紀(38期Pf)
曲目：ベートーヴェン 「うつろな心」による変奏曲
ウェーバー 舞踏への勧誘
リスト タランテラ 他
日時：2008年1月27日(日)14:00
会場：学園前ホール

♪京都市立芸大出身者による

ブリリアント・コンサート2008

～ビバ!アンサンブル～

出演：池田由佳子(46期Vo)、平田昭浩(42期Cb)、
玉江亜紀(46期Pf)、小田切美穂(41期Pf)、
河村さと子(16期Vo)、西川香代(45期Cl)、
田淵幸三(14期Vo)、大岡真紀子(29期Pf)、
峰谷葉子(29期Pf)、阿野由希子(42期Fl)、
稲葉万姫(41期Ob)、藤井麻実(46期Cl)、
内等すずえ(52期院Fg)、永武靖子(49期Hr)、
雪原典子(25期Pf)、

曲目：G. ボッテジニ Sop.Cb&Pfのための2つの歌曲
P. ヒンデミット コントラバス・ソナタ
L.シュポア オペラ「ファウスト」より「私はただ一人で～貴方をなんとお呼びすれば」
A. ウィルス 歌曲「二人の魂が目覚め」
J. ブラームス ハンガリー舞曲第1番～第6番
F. プーランク 六重奏曲

日時：2008年2月24日(日)14:00

会場：ザ・フェニックスホール

♪多川響子・上田明美ジョイントコンサート

～ベートーヴェンとショパンの音楽～

出演：多川響子(44期Pf)、上田明美(44期Pf)
曲目：ベートーヴェン ピアノソナタ第27番Op.90
ショパン バラード第3番
ショパン ノクターンOp.62-2 他

日時：2008年3月2日(日)14:00

会場：奏美ホール(大津市)

♪ジョイントコンサート Der Blumenstrauß～

出演：山守美由紀(48期Vo)、辻有里子(48期Pf) 他
曲目：レスピーギ 最後の陶酔、ストルネッロを歌う女
ヴェルディ 《リゴレット》より「慕わしき人の名は」
R.シュトラウス 《ばらの騎士》より3重唱「これでお芝居は終わったのだわ」
他

日時：2008年3月29日(土)19:00

会場：兵庫県立芸術文化センター小ホール

♪アンサンブルコンサート「食卓の音楽」

～Flute×Percussion×Tapdance～

出演：宅間斉(31期Per)、石倉明日香(45期Per)、
宅間由美子(32期作)、中田麦(3回生Per) 他
曲目：メイヤー 食卓の音楽
A. ジョリベ フルート協奏曲第2番
加藤ユミコ 「遙遊」～独奏マリンバとタップダンスのための～
他

日時：2008年4月1日(火)19:00

会場：京都文化博物館別館ホール

♪エレーヌ・ラサル&山上友佳子デュオリサイタル

出演：エレーヌ・ラサル(VI)、
山上友佳子(Pf)(34期作)
曲目：ストラヴィンスキー イタリア組曲
中村典子 リンゴの朝の歌(初演)
ヴィエルヌ ヴァイオリンとピアノのためのソナタ
他

日時：2008年4月19日(土)15:00

会場：青山音楽記念館バロックザール

♪アフター・アワーズ・セッション

プーランクに魅せられて

出演：右近恭子(25期Pf)、日比浩一(29期Vn)、
松原史樹(29期Cl)、津村瑞(32期Fl) 他
曲目：F. プーランク 六重奏曲
ヴァイオリンとピアノのためのソナタ
ピアノ、オーボエ、ファゴットのためのソナタ
他

日時：2008年4月30日(水)18:30

会場：東梅田教会

♪歌曲のタベ(「ソワレの会」主催)

出演：藤美千代(43期Vo) 他
曲目：プーランク メタモルフォーズ、ルイ・アラゴンの2つの詩
他

日時：2008年5月1日(木)19:00

会場：兵庫県立芸術文化センター小ホール

♪河村さと子ソプラノリサイタル

出演：河村さと子(16期Vo)、船橋美穂(25期Pf)
曲目：モーツァルト 《フィガロの結婚》より「楽しい思い出どこへ」

R.シュトラウス 《ばらの騎士》より「行ってしまったわ、あのいやな人」
團伊玖磨 《夕鶴》より「これが最後の布…さようならとひよう」
他

日時：2008年5月4日(日)14:00

会場：いずみホール

♪山口梨紗ピアノリサイタル

(財)青山財団助成公演

出演：山口梨紗(50期Pf)
曲目：ハイドン ピアノソナタ変ホ長調Hob.16-52
ショパン 舟歌
シューマン 交響的練習曲Op.13 他

日時：2008年5月11日(日)15:00

会場：青山音楽記念館バロックザール

♪アンサンブルコンサート「食卓の音楽」

～Flute×Percussion×Tapdance～

出演：宅間斉(31期Per)、石倉明日香(45期Per)、
宅間由美子(32期作)、中田麦(3回生Per) 他
曲目：M. メンケ 食卓の音楽
A. ジョリベ フルート協奏曲第2番
加藤ユミコ 「遙遊」～独奏マリンバとタップダンスのための～
他

日時：2008年5月11日(日)16:00

会場：奈良市北部会館市民文化ホール

♪京都市立芸術大学音楽学部同窓会

真声会京都支部による

第25回プロムナードコンサート(支部設立20周年記念)

出演：平居妙子(50期Pf)、増永智子(50期Pf)、
西村孝子(20期Pf)、粟辻紀子(26期Pf)、
河内知子(35期Vn)、山本祐梨子(47期Pf)
曲目：プーランク 「仮面舞踏会」の終曲によるカプリッチョフマニフ 組曲第2番
プロコフィエフ 「ピーターと狼」
ビーバー ヴァイオリンソナタ第4番
ルクレール ヴァイオリンソナタ
リスト スペイン狂詩曲

日時：2008年5月18日(日)14:00

会場：京都コンサートホール ムラタホール

♪宮本克江オーボエリサイタル

ーmy favorite “MAHLER”ー

出演：宮本克江(33期Ob)、平林知子(35期Pf) 他
曲目：プレヴィーユ オーボエとピアノのためのソナチネ
カリヴォダ 小協奏曲Op.110
マーラー Ob,Cl,Fg,Pfによる交響曲第4番第1楽章(宮本謙二編曲)
他

日時：2008年6月4日(水)19:00

会場：ムラマツリサイタルホール新大阪

♪まことのはるー 中村典子作曲作品展

出演：伊藤朱美子(41期Per)、伊藤多美子(42期Per)、
安田直己(52期Per 院2)、
小川彩音(4回生Cond)、山田正子(32期Fl)
他
曲目：中村典子(32期作) ナガ、カタ(Mar. solo)、
アガタとナビ(Fl,Per)、サクラ(2Vn)
カサヌヒ(Vn,Va,Vc)、母なる湖(Fl orch)

日時：2008年6月5日(木)18:30

会場：青山音楽記念館バロックザール

♪フルートとピアノによる邦人作品演奏会

出演：大江浩志(27期Fl)、岩崎宇紀(27期Pf)
曲目：丹波明 ピアノソナタ(1958)
江村哲二 Ryo and G(2002)
武満徹 巡り～イサム・ノグチの追憶に(1989)
他

日時：2008年6月8日(日)時間未定

会場：ムラマツリサイタルホール新大阪

♪バイオリンとピアノのタベ

～もっと身近にクラシック～vol.2

出演：松谷愛子(44期Pf)、相津朋子(Vn)
曲目：モーツァルト ピアノとバイオリンのためのソナタ第25番ト長調K.301
ショパン エチュードOp.10-3「別れの曲」
エルガー 愛の挨拶
シューベルト ロンドOp.70 D895 他

日時：2008年6月14日(土)19:00

会場：長岡京市中央生涯学習センター内メインホール

※演奏会の真声会後援および会報掲載は会費納入者のみとさせていただきます。どうぞご了承ください。

編集後記

役員に就任してから二回目の会報がいよいよ発行されます。前回は手探りで始め、無事発行されるまでドキドキの連続でしたが、今回は落ち着いて編集作業を行うことができました。しかし、新企画「会員だより」を始め、今回は原稿の依頼が数多く、締切になっても原稿がほとんど集まっていない状態で、その時は少し焦りました。締切を過ぎてポツポツ届く原稿に、せっかく入れた(編集作業への)気合いが抜けていった…ことが良くも悪くも、仕事との両立を可能にしたと思います。予定が狂い、予定が立たず、「なんとかなるさ」と開き直った結果、体力的にも精神的にも余裕が出て、仕事の合間での作業で間に合いました。お陰で発行は予定より遅れましたが。次回は、原稿が締切までに届くように願いつつ、また緊張感をもって作業に臨みたいと思います。

(O)